

## 20××年予測 アルゼンチンの牛:牛肉輸出は22%増で、最多に~FAS~

	〔牛生体頭数推移〕1千頭 *推定 予測		
	2014年	*2015年	2016年
年初飼育	51,545	51,545	51,995
乳用カウ	2,100	2,000	2,000
肉用カウ	21,300	21,300	21,500
生産子牛	13,300	13,700	14,000
輸入計	0	0	0
供給計	64,845	65,245	65,995
輸出計	0	0	0
と畜計	12,400	12,500	12,100
損失	900	750	650
年末飼育	51,545	51,995	53,245

	〔牛肉需給推移〕1千ト、枝肉換算 *推定 予測		
	2014年	*2015年	2016年
年初在庫	0	0	0
生産量	2,700	2,740	2,680
輸入量	0	0	0
供給総量	2,700	2,740	2,680
輸出量	197	230	280
消費量	2,503	2,510	2,400

アナリストは20××年12月に新政府が実施する政策にもよるが、輸出はさらに拡大する可能性があるとしている。貿易関係者は、現在の輸出規制、輸出税、ペソ高は修正されると確信している。

20××年1-7月の牛肉輸出は8%増。中国/香港への輸出は61%と驚異的に増加している。このため、中国が輸出先第1位へと浮上した。一方、対口輸出は61%と大幅に減少。

中国、EU、チリ、イスラエルへの輸出が総輸出の80%以上を占めている。

20××年6月、米動植物衛生検査局(APHIS)はアルゼンチン北部からのフレッシュ・ビーフ輸入認可のためレギュレーションを改定し、輸入を再開すると発表した。輸入再開は衛生状況の認可が終了し次第となるだろう。

輸出業者は対米フレッシュ・ビーフの輸出が再開されたら、米は非常に重要な輸出先になると期待している。アルゼンチン産フレッシュ・ビーフに対する米低関税輸入枠(TRQ)は2万ト(生産重量)で、関税は<sup>キ</sup>当たり4.4%。しかし、枠外には26.4%の関税が課せられている。輸出業者は20××年には1万トから2万トの輸出が可能となると見ている。米市場は中国やロシアと比べ、価格が高い。199×年-200×年に2万3千500ト対米輸出されたが、チルドはわずかに1千950ト。

対中輸出増で、フローズンの輸出が総輸出のなかでもシェアを伸ばし続けると見られている。米市場が再開されたら、フローズンの輸出割合はさらに拡大しそうだ。

20××年1-7月、フローズンの平均輸出単価はト当たり4千600ドル(1USドル120円換算で55万2千円)。一方、チルドはト当たり9千ドル(108万円)で、ほぼ倍。しかし、チルドの輸出単価は前年比16%安に、フローズンも10%安となっている。

量での輸出先第2位はEU。しかし、額では価格の高いチルドの輸出が多いため最多。アルゼンチンに対するEUのヒルトン枠は2万9千500ト(生産重量)だが、ここ数年満たしたことはない。

米農務省の海外農業局(FAS)によると、20××年の牛肉生産は2%減の268万トとなる見通し。牛部門の改善が期待されており、子取り用若齢雌の留保で、と畜減となり、牛肉生産はここ4年で最少となりそうだ。

20××年12月には新大統領が政権に付く予定。生産者は3人の大統領候補者は輸出条件の緩和など牛部門にとって有利な政策を実施すると確信している。

と畜減と生産子牛増で、20××年末の飼育頭数は2%増の5千324万5千頭となり、2008年以降の最多と予測されている。

天候が良く、牧草も充分で、飼料価格も安い。ため、20××年は生産子牛が3%増の1千370万頭に、20××年も2%増の1千400万頭となる見込み。

アルゼンチンには規模の違う600か所以上のと畜場があり、このうち約1/3が連邦政府検査工場。約100か所の処理工場が輸出の認可を受けている。と畜場の総キャパシティは1千600万頭から1千700万頭。

600か所のと畜場のうち、30か所が中大規模の輸出用。7か所がブラジルの2大グループの資本だが、大半が現在閉鎖中。1か所は中国企業が所有しており、20××年末に買収された。エントレリオス州の中規模と畜場が昨年5月、初めて中国へ牛肉を輸出した。

国際獣疫事務局(OIE)は、アルゼンチンをワクチン付きでの口蹄疫清浄国として認定しており、BSEのリスクもほとんどない。

20××年の牛肉消費は2011年以降最少、4%減の240万トとなる見通し。牛肉生産が多少減少し、輸出が増加すると見られ、国内供給が減りそうだ。一人当たりの消費は20××年の59<sup>キ</sup>から3<sup>キ</sup>減の56<sup>キ</sup>となる見通し。

アルゼンチンでは牛肉がもっとも好まれており、一人当たりの消費の世界でもっとも多い国のひとつ。

20××年の牛肉輸出は22%増の28万トに達する見通しで、実現すれば200×-20××年以降の最多。